
記憶屋 ある日の幸成と茂久

国見遥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

記憶屋 ある日の幸成と茂久

【Nコード】

N1504D

【作者名】

国見遥

【あらすじ】

幸成と茂久の下らない会話です。ちなみに・・・実話を元に書きました（笑）

（前書き）

記憶屋本編とは基本的に関係ありません。ご了承ください。

「もしもし」

「よお、幸成」

「よおじゃねえよ。何か用か？」

「冷たいなあ幸成は。いつつもクールだよねキミは。少しは暖かい心をだな・・・」

「黙れ。お前みたいに暇人じゃないんだよオレは」

「つたく・・・。ある情報を仕入れたから教えてやろうと思ったのになあ」

「なんだ？」

「おしえなーい」

「なんだよ？」

「おしえなーい」

「もういい。切るぞ」

「わあ、ウソウソ。教える。教えるから切らないで」

「茂久、お前はいい奴だよ。でもな、その常にふざけた性格は大い

にお前の欠点だ。直したほうがいいぞ」

「幸成、お前だっていい奴だよ。でもなあ、その常に異常なほどの冷静さというか冷酷さというか何というか」

「見切り発車だな」

「ええ、次は、オチ。オチでございます」

「ちょっと弱いな」

「お気に召さないようで」

「次はパンチの効いたやつを頼むよ」

「それならば、先日インターネットをしていて・・・」

「妹にオナニー見られたんだろ？何度も聞いたよそれ」

「そうだっけ？『何してるのお兄ちゃん？』に『乾布摩擦』って答えたオレは天才だと思うんだが」

「よかったよ。お前が友達で」

「なんだよ。急に褒めんなよ。いくらオレが面白いからってさ」

「兄弟じゃなくて本当によかった。大恥だ」

「いくらオレでも傷ついた」

「知らん。んで、なんだよ、ある情報って？」

「ん。オレはもしかしたら女にもてるのかもしれない」

「・・・で？」

「で？って・・・。もう少しオレのことに興味を持ってくれてもいいんじゃない？」

「突拍子もない」

「ばっかやろう。周囲の評価を聞いてみる。オレの評価最高だぞ」

「お前の話なんて聞いたことないね」

「ファック」

「なにがファックだ。慣れない英語使っなよ」

「オレって彼女できると思う？」

「その気になれば」

「幸成は？彼女作るきないの？」

「さあな」

「むう。答えてくれてもいいじゃないチェリーボーイ」

「黙れ」

「オー。ゴーメンナサーイ」

「なんでカタコトなんだよ」

「さあて、乾布摩擦でもして寝るかな」

「おい、結局何の電話だったんだ？」

「ヒマツブーシデースヨ」

「・・・ファック」

「ユキナリクンモ、イッショニ、レッツ、カンプマーサッ」

ブツッ

ツーツー

ツーツー

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1504d/>

記憶屋 ある日の幸成と茂久

2010年11月5日02時08分発行